

# 自治会トピックス

## 環境美化も共助で！

### 大平

住宅街を散歩していると、よく手入れされた庭から色とりどりに咲き誇っている草花や形の良い庭木が見え、また香りを感じることができます。

一方、庭に雑草が繁茂し、樹木が道路や隣家に伸びた状態のところも散見します。

大平自治会では、地域環境の改善や美化にボランティアで取り組んでいる「大平地域美化グループ」が、高齢等の理由で手入れができずに道路に伸びた生垣の剪定や、大きくなりすぎた樹木の伐採、市道沿いの草刈り作業を、地権者と調整のうえ行っています。

このグループは、10年以上活動しており、自治会の体育部会や防犯パトロール活動でも中心メンバーとして熱心に取り組んでいただいています。

地域の福祉や環境、防犯、防災など様々な課題に自発的に取り組むグループを大切に、育成したいですね。



## コロナ禍で何が出来る

### 常葉台

新型コロナウイルスの影響で、自治会活動のほとんどは自粛せざるを得ませんでした。そこで、自治会内で不都合がないか見直しをしたところ、下記のような問題点が見つかりました。

1. 自治会内に地番ならび目印になるものが少なく、初めて来訪する客に案内がままならない。
2. 自治会役員の家がどこか分からない。

これらの対策として、ごみステーション計13ヶ所に看板を設置し、目印としました(写真①)。また、自治会役員の家玄関前にステッカーを設置しました(写真②)。

ほかに、犯罪抑止対策として、外部から自治会に通じる出入り口および公園、駐車場に防犯カメラの設置を検討しています。



## 新施設「しおかぜみなと」

### 牛久保町

牛久保町内に、50年以上建っていた「湊二高」の校舎は、町のシンボリックな存在でしたが、約10年前に70年の歴史を閉じ閉校となり、現在跡地は平成30年より「スポーツ&カルチャーしおかぜみなと」として体育館や一部の建屋が活用されています。しかし、残念ながら校舎やはまぎく会館等は老朽化のため、昨年10月から解体工事が始まり、体育館と使用施設を除き更地となりました。

今後、しおかぜみなとの新館建設及び駐車場の整備が予定されているとのことです。これまでも、自治会としてグラウンド・ゴルフ等で利用しておりましたが、新館建設後は、自治会活動の主たる場所として、自治会活動の幅を広げていきたいと考えております。各自治会の方も是非ご利用ください。



↑校舎解体工事前



↑校舎解体工事後

## 環境美化運動

### 殿山町

殿山町自治会では、新型コロナウイルス感染防止対策のため、多人数で行う行事等の開催を自粛しておりましたが、去る5月30日(日)環境美化運動を行いました。コロナ禍の中での実施なので、会員の方々の集まりが危惧されましたが、早朝より70名ほどが参加し検温、マスク等を配布した後、2～3名で班を形成し、殿山町全域で空き缶、ゴミ等の収集にあたりました。残り数名の方が集会所周辺の清掃、生け垣の剪定を実施しました。



## 編集後記

新型コロナ禍での活動も2年目を迎えました。今年は、自治会連合会の総会を感染症対策を充分に行い、自治会長が出席しての開催ができました。お互いの元気な顔を、確認しての会合はやはりいいものです。

10年ほど前から始めた「資源回収活動」。最初は、リサイクル活動と思っていましたが、実は、国連のSDGs(持続可能な開発目標)に貢献していると知りました。自治会活動のほとんどを、自粛していた2年間も着実に続けることができたことを会員の皆さんに感謝いたします。

自治会についての詳細情報は、市のホームページにも掲載しています。

<https://www.city.hitachinaka.lg.jp/shiminkatsudo/4/5/index.html>



再生紙及び植物油インキを使用しています。

# ひたちなか市自治会連合会だより

第70号  
発行日/2021年8月25日  
発行所/ひたちなか市自治会連合会  
広報委員会  
(事務局ひたちなか市市民活動課)  
TEL 273-0111

## 新型コロナウイルスワクチン接種が始まりました

ひたちなか市では、65歳以上の高齢者を対象に新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が始まり、現在では、12歳以上の方へと接種が進められています。

最近、高齢者が集うと必ずワクチン接種の状況が話題になり、既に2回の接種を終えた方がいる一方、ワクチン接種を希望しても、電話が繋がらない、スマートフォンなどの情報機器を持っていないなどの理由により、予約の取れていない方がいることも耳にします。

ワクチン接種を希望しながらも予約の取れない方を対象に、予約を支援している活動もあります。

本郷台自治会の飯島会長は、6月7日予約開始に合わせ、会員の方1名とボランティアとして、「ワクチン予約サポート隊」を結成し、予約できずにいた方20名の2回分の集団接種の予約をサポートしました。「支え合い・助け合い」の精神での取組だと思えます。サポートを受けられた方からは、「困っていたので大変助かった」、「安心した、大変感謝している」などの声が寄せられました。

ワクチン接種が進み、コロナウイルスに極度の不安を感じることなく、従来どおりの自治会活動や安心安全の日常生活に復することを願っています。



ワクチン予約サポートの様子

## ひたちなか市自治会連合会総会

4月27日(火)に、ホテルクリスタルパレスにて、令和3年度自治会連合会総会が感染症対策を講じて、開催されました。連合会会長・来賓のあいさつ、新任自治会長の紹介後、議長に池田聰氏(大平自治会)を選出し、議事に入りました。令和2年度の事業報告と決算報告並びに令和3年度の事業計画と予算を審議し、いずれも議決承認されました。役員には、会長に坂井久彦氏(大成町自治会)、副会長に近藤清二氏(枝川自治会)、川又武司氏(長砂自治会)、梅原正博氏(相金自治会)が選任されました。議事終了後、大谷市長から市政協力員の委嘱と退任自治会長への感謝状贈呈が行われ、最後に新型コロナウイルスワクチン接種の実施見通し等についての報告があり、閉会しました。



## 新任自治会長研修会 5月24日(月)



津田第三自治会  
会長 宇留野 騎一郎

「安全で安心なまちづくり」を目標に、「地域のことは地域で支え合い、助け合い、明るく楽しく元気よく強めよう地域の絆」を掲げ、「子どもの見守り」「高齢者の見守りと支援」「防犯・防災活動」「地域のふれあい」などの自治会事業・行事を実行してまいります。

当市でもワクチン接種がスタートしましたが、未だ先行き不透明で、日常生活の中においても手探りの状態です。この状態は完全に戻ることは無く、コロナ禍における「新たな生活様式」を踏まえた活動を続けていくことが大切になると思います。

コロナ禍と上手く付き合いながら社会活動を続けていくことになると考え、「変わらなければならないこと」、「変えられないこと」、「変えてはならないこと」を視座に活動していきたいと思っております。

新任自治会長研修会の市役所各部署と社会福祉協議会からの内容説明は有意義で、自治会活動を進めていく上でまた関係機関と連携を図る上でとても役に立ちました。



龍之口町自治会  
会長 古矢 宣巳

液状化・津波による浸水等、甚大な被害を経験した東日本大震災から十年が経ち、人口は減少し、高齢化

が進み自治会活動をどのように行うか考える中、市役所各部署及び社会福祉協議会から制度・事業等の説明を受け、年間の活動を行う上で有意義な研修であったと思っております。

また、各部署との連携の重要性を認識しました。当自治会は、川に接し、海にも近い地区で災害のポテンシャルが高く、災害時の安全・安心の確保が重要項目となっています。

「思いやり、支えあい 元気で明るいまちづくり」のもと、高齢者・要支援者の支援、災害時の安全確保、各人が参加しやすい環境づくりなど、同様の問題を抱える他自治会との意見交換等を、自治会活動に取り入れていきたいと思っております。



## 新任自治会長紹介

下記の方々が新たに自治会長に就任しました。令和3年度(敬称略)



- |                |                 |               |
|----------------|-----------------|---------------|
| ●永盛 啓司 (勝田駅前南) | ●宇留野 騎一郎 (津田第三) | ●植田 正典 (佐和)   |
| ●加藤 一清 (稲田)    | ●西野 勝行 (高野宿)    | ●小泉 春義 (高場南)  |
| ●朝日 勝寿 (湊本町)   | ●阿久津 聡 (田中町)    | ●益子 準 (柳が丘)   |
| ●塩崎 昌一 (柳沢美田多) | ●田中 雅史 (神敷台)    | ●軍司 秀幸 (十三奉行) |
| ●古矢 宣巳 (龍之口町)  | ●関根 文明 (平磯)     |               |

## 令和2年度 自治研修懇話会

新型コロナウイルス感染拡大並びに変異型ウイルスも発生しており、我が国ではこれからワクチン接種が本格化しようとしている中、令和3年3月19日(金)に「コロナ禍における自治会運営について」をテーマに自治研修懇話会が開催されました。講師には前回に続き、まちづくりコンサルタントの水津陽子氏を迎え、講師と会場をWeb会議システムでつなぎ、スクリーン越しで講義を行いました。

内容として「自治会活動実施にあたり、感染症対策、主催者の責任等の具体的事例」、「コロナ禍での活動とその意義」、「コロナ禍で進む自治会ICT活用」等々と幅広い内容であり、今後の自治会運営に対し、有意義な研修会が行われました。



## 自治連コラム

## 忘れられつつある「向こう三軒両隣」

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、我慢の日々が続いています。不要不急の外出を控え、人と人との接触機会を減らして生活する中で、孤独や孤立の問題が生じています。

先日、私の住む地域で、80代男性の孤独死が起きてしまいました。以前は、自治会に加入していましたが、一人暮らしで高齢のため、自治会を退会してしまいました。以前は、最低でも月二回の市報等の回覧物の配布など、定期的に声を掛け合う機会があり、安否確認にもなっていました。

高齢世帯の方が自治会を退会するのは、組長、班長ができないので迷惑をかける、との理由が多いと感じます。できない時は、お互いに助け合い、協力し合うことも大切ではないでしょうか。自治会を退会したことによって、地域社会とのつながりが希薄になることも心配です。普段から人との会話が、近所づきあいが暮らしていると、いざ何かに困ったときに、頼れる人がいない状況になるのは不思議ではないと思います。

ひと昔前までは、「向こう三軒両隣」といった親しい近所づきあいがありました。

## 自治会(長)の活動報告

コロナ禍における自治会活動の取り組み

### ～機関紙発行と屋外掲示板の設置から～ 市毛南自治会

コロナ禍により、従来の自治会活動も新たな工夫が必要となってきていますが、感染症への対策を講じる中であっても、地域住民同士の関わりは不可欠です。当自治会では、会員相互の情報交換や地域住民の交流を促進する働きとして、機関紙「つながりトピックス」の発行と、新規に「屋外掲示板」を設置しました。機関紙と掲示板は関連性を持つこととなりますが、機関紙はA4両面で毎月1回、自治会活動や身近な出来事などを記事にし、全会員に向け配布しています。屋外掲示板には、会員向けの機関紙を倍に拡大し、目に付くようカラー印刷にて掲載しています。特に掲示板の設置は、未会員である地域住民に向けた発信が可能となるため、掲載により、自治会活動に理解を頂く良い機会と捉えられます。



屋外掲示板の設置を行った市毛南自治会役員の方々

本来、自治会のつながりは、一定の地域内に住む人たちを中心に、日常的な親睦や交流を通して、地域の連帯感を高めるのが望ましい姿ですが、コロナ禍でこれまで培ってきた地域のつながりが希薄にならないよう、自治会活動やコミュニティ活動の一環としての機能を持つ、機関紙や掲示板の役割を活用することにより、自治会への関心が高まることを期待しているところです。

## 市への要望書の提出 3月22日(月)

当連合会では市との協働のもと、自治会活動の更なる充実を図り、安全・安心な住みよい地域づくりを推進するため、大谷明市長へ要望書を提出しました。

- 自治会長(市政協力員)及び自治会の負担軽減について  
加入世帯数の減少、役員や活動の担い手不足等により、従来の自治会運営を継続していくことが徐々に困難な状況となってきている現状を鑑み、自治会長及び自治会の負担軽減について配慮いただくよう要望しました。
- 集会所建設等資金補助制度の拡充について  
地域住民の拠り所となる集会所について、老朽化や高齢者・障がい者への環境の整備がされていない現状を受け、今後、多くの自治会で建て替え等が想定されることから、自治会が集会所を建て替える際の補助の拡充を要望しました。



大谷市長に要望書を手渡す自治会連合会役員